



ユーザーのSNS発信から 需要が急増！ 海外で拡大するカスタム パーツブランド

二輪車部品企画・販売 有限会社イクス・プロデュース

幼児向けのペダルなし二輪車・ストライダーは、世界で200万台を突破した大ヒット商品
カスタムパーツのDADDYLABブランドが、グローバルに広がっている

■カスタムパーツを中心に、 プロモーションを展開

有限会社イクス・プロデュースの長谷川一英社長は、家族との買い物中に、子ども用の自転車を見かけた。よく見ると、ペダルがない。

「面白い！」と思いました。直観的に、これは人気が出る商品だな…と惹きつけられたのです」

前職で自動車のデザインを担当して

いた長谷川社長は、その不思議な二輪車に何かを予感した。

さっそく長谷川社長は、その二輪車「ストライダー」の日本法人に連絡をとった。ストライダーには幼児の運動能力向上を促す機能があると知り、さらに興味をもち、協力を申し出る。話し合いを重ねた結果、関連商品を作つて、プロモーションを展開することになった。長谷川社長が提案したのは、標準モデルの黒いホイールに貼る、7

色のカラーシール。ボディの色と組み合わせれば、ストライダーをかっこよくカスタマイズできる。

「父親目線のかっこいいキッズ、ファミリー商品を展開するため、自社ブランド『DADDYLAB』を立ち上げました。当初はカスタマイズにこだわるニッチなユーザー向けの商品展開をしていたので、自社オンラインショップで小ロットの販売体制を敷いていました」

■海外のユーザー・代理店の勢いに押されて商標を登録

流れが変わったのは、ストライダーの認知度が高まり、マーケットが拡大した頃からだ。DADDYLABの製品でカスタムしたストライダーを、子どもの親がSNSにアップし始めたことをきっかけに、当社に多数の問い合わせが寄せられるようになった。大手スポーツ用品店などを中心に販路を開拓し、増加する注文に対応。2016年2月には国内で商標を登録した。

しかし、SNSの宣伝効果は国内だけに留まらなかった。世界各国で開催されるストライダーのレースでDADDYLABブランドが注目され、ア

社長の声

海外での商標登録について、何から始めればいいか全く分かりませんでした。しかし、海外での知財戦略は政府も推進していることから、サポートしてくれる機関、専門家が多く存在します。弊社も課題解決のアドバイスを受け、商標登録や海外企業との基本取引契約書の作成も支援していただきました。知財は複雑なので専門家に相談することが大切だと思います。

有限公司 イクス・プロデュース
代表取締役社長 はせがわ かずひで
長谷川 一英氏



会社概要

沿革：販売促進のためのグラフィックやWebなどのデザイン、プランニングやコンサルティングが主な事業。2012年よりストライダーのカスタムパーツブランド、DADDYLABを展開。

所在地：栃木県宇都宮市

創業：1997年

業種：二輪車部品企画・販売

資本金：800万円

従業員数：4名

ホームページ：<https://daddylab.jp/>

売している。

今やDADDYLABは、カスタムパーツのパイオニアとしての地位を築いており、ストライダーに乗る子どもたちにとって人気のブランドだ。現在、ホイール、シート、ハンドル周り、さらにはグローブなど、約30アイテムのカスタムパーツを展開している。

ストライダーのユーザーは世界で200万人を超える、ハイエンドなカスタマイズを施すマニアも現れた。

「DADDYLABのカスタムパーツは、だれでも自分だけのオリジナルのストライダーをデザインできるツールなのです。カスタムという切り口から、ストライダー市場の広がりに今後も貢献ていきたいです」

長谷川社長は、機能性と品質を維持しながらも、今後はさらにブランド力を磨くことを目指している。



地面を足で蹴って進むため、下半身の筋力とバランス感覚が養われる



現在、約30アイテムのカスタムパーツを展開中

2012

11月 「DADDYLAB」ブランド事業開始
直営オンラインショップによる販売開始

2013

5月 大手スポーツ用品チェーンなどから複数のオファーがあり、販路が整う

2016

4月 香港・中国向けに輸出開始
12月 「DADDYLAB」商標出願
【香港・台湾・韓国・中国】

2017

4月 「DADDYLAB」商標登録【香港】
7月 ロシア向けに輸出開始
8月 タイ向けに輸出開始
11月 「DADDYLAB」商標登録【台湾】

2018

3月 「DADDYLAB」商標登録【韓国】
4月 アメリカ・カナダ向けに輸出開始
8月 マレーシア向けに輸出開始
9月 「DADDYLAB」商標登録【中国】